



一銭にもならないことに、皆で汗を流す。損得が絡まなければ、人はぶつからないものです。

齊藤都繁氏

移住支援組織リーダー

過疎対策により移住受け入れを推進している群馬県桐生市黒保根町。この地で、地域PRイベントの実施や空き家情報収集を行う地元支援団体「くろほね居住交流支援隊」隊長を務めるほか、祭りの復興や道の美化などのボランティア活動に長年取り組む。現在は、わたらせ渓谷鉄道および、全国でも貴重な駅舎内温泉センター（水沼駅）存続にも尽力中。1942年生まれ。67歳。

◆ 今ではなく将来の利益なら、目標を共有しやすい

そりゃ、ぶつかることもあるよ。隣人づきあいひとつにしても都会の常識と田舎の常識は違うから。でも、花植えてきれいって気持ちは変わらないでしょ。今ここで、ボランティアでやっている公園作りも、仲間の3分の1は移住者だけど揉め事もなく楽しくやれてますよ。木を切って散歩道を作り、自宅の木を引っっこ抜いてきて植えてみたり曼珠沙華の球根を植えたり、全くの手作り。そりゃ都会モンは鎌、持たせたって刈れやしねえから、「へったクソー！」って茶化されるけどね！ まあただのモノ好きだよな、一銭にもならないことに汗かいて楽しいなんて。でも逆に言えば、損得すっきり抜きだからうまくいくんだ。あるのは町のためになることをしたいという気持ちだけで、それは先住者も移住者も変わらないからね。利益と云ったら、孫の時代になって「あれは俺の祖先が植えた木だ」って言われることくらい（笑）。自分がこの時代に生きた証に、そのくらいはいいでしょう？ 誰かの利益になるようだったら人は絶対ついてこないですよ。

◆ 物事を動かすのは人数。トップの仕切りは当てにならない

そんな繋がりでも持っておけば、移住者に何かうまくいかないことがあっても誰かが間に入ってやれるよね。孤立だけはさせないようにしないと。あと大事なものは住民全体の協力ですよ、やはり。物事を動かすには人数なんです。役所じゃ当てにならない。「くろほね居住交流支援隊」が農業組合や婦人会など地元で活躍している団体の寄り合いで構成されているのもそのため。空き家情報やPRイベント協力農家も、町じゅうを動かして探してくれるから力強いですよ。移住者はもう30組を超えましてね。今じゃ経験者の立場から移住支援に参加してくれる人もいます。そうした人たちの中から、将来の町のリーダーが生まれてくれたらうれしいね。